



マークの付いた行事は「石狩市 市民生活便利帖(動画版)」でもご紹介しています。 <http://benri.i-eris.tv/>



マークの付いた行事は「えりす いしかりネットテレビ」でもご紹介しています。 <http://www.i-eris.tv/>

■9/26(木) 浜益小学校の稲刈り

澄み切った秋晴れの中、浜益小学校の全校児童が「稲刈り」を体験しました。稲は、春に子どもたちが田んぼに入って自分たちの手で植え、かかしを作って守ってきたもの。その稲を、昔ながらの方法で、自分たちの手で刈り取り、12月には臼ときねを使って、餅つきをして、いただくことになっています。

Voice

こうして手で植え、育った稲を刈り取ることは、なかなか体験できないことです。子どもたちはもちろん、先生やPTAの皆さんにも何か感じ取っていただけたらうれしいですね。
(北海道里づくりアドバイザー 阿岸哲広さん)



■9/27(金)~30(月) 姉妹都市3カ国が大集合

今年で姉妹都市協定の締結30周年を迎えたカナダ・キャンベルリバー市と、20周年を迎えたロシア・ワニノ市から訪問団がそれぞれ来石しました。さらに、2020年に20周年を迎える中国・彭州市からも訪問団が来訪。総勢48人の訪問団は、第50回石狩さけまつりを見学しました。秋の石狩を満喫するとともに、28日には花川北コミセンで祝賀会に出席し、引き続き末永い交流を固く約束しました。

Voice

祝賀会会場では、再会を喜び抱き合う姿や、話に盛り上がる姿が多く見られ、今回の周年事業で友情が一層深まったように感じました。これからも息の長い交流を続けていければと思います。(姉妹都市提携周年記念事業実行委員長 星さん)



■9/29(日) 浜益中学校の学校祭

今年の学校祭では、学年ごとの展示として、1年生が巖島神社、2年生が自由の女神、3年生がエジプトのピラミッドのジオラマを制作し、美術部では部活動での個々の作品が発表されました。なお、今回の学校祭は体育館が工事のため使用できず、浜益コミセン「きらり」での開催となったため、例年と勝手が違って、生徒も先生も練習と準備に大変だったようです。

Voice

今回の会場は「きらり」でしたので、私たちPTAのお手伝いも勝手が分からず大変でした。でも、そういったことも、生徒みんなの思い出の1ページとなってほしいですね。
(PTA 河野まり子さんとその仲間たち)



■10/6(日) 石狩いきいきウォーキングin浜益

石狩いきいきウォーキングの3回目は浜益区で開催。秋の黄金山など浜益の風景を眺めながら、37人が川下海浜公園から浜益温泉まで約6kmのコースを歩きました。途中、実田浜中橋でサケのそ上を見学。ウォーキング終了後には、浜益温泉で石狩鍋とおにぎりを食べ、温泉入浴やパークゴルフを楽しみました。最後は買い物タイム! 浜益の新鮮なタコを買い求める参加者が多くいました。

Voice

浜益の自然を見ながらのウォーキングはとても気持ち良かったです。そ上するサケの姿も見ることができ、楽しみながら運動不足を解消できたので、とても充実した日になりました。(稲見隆一さんと浜尾千夏子さん)





まちの主な出来事を写真で振り返ります。

まちの話題



■9/10(火) パートナースクール

聚富小学校の1年生4人と2年生5人、そして緑苑台小学校2年生96人が、地域間交流とコミュニケーションの力を育てることを目的に、聚富小学校近隣の農場で、農作物の収穫体験を行いました。児童は秋晴れの中、楽しそうに話をしながら農地を散策し、土から掘り出されたばかりのジャガイモなどを収穫していました。

Voice

パートナースクールで、緑苑台小学校のみんなと野菜を収穫するのが楽しかったです。
(聚富小学校2年 中村こゆきさん)



■9/22(日)~29(日) 石狩市寿窯30周年記念展

高齢者のための生きがい対策事業として昭和58年に始まった「寿窯陶芸教室」が創立30周年を迎え、その記念展がアートウォームで開かれました。会場には、写真のような干支の置き物や、同展のために制作した陶板が壁一面展示され、訪れた人からは「私も始めてみようかしら」という声も。出品者の中には、自分の作品の前で、友人や家族とともに笑顔で記念撮影をする人もいました。

Voice

30年の間にお世話になった多くの方に感謝し、今回は90人が作品を発表しました。これからも陶芸を通して学ぶことの素晴らしさを追求してもらえたらと思います。
(寿窯代表 前野右子さん)



■9/22(日)・23(月・祝)・28(土)・29(日) 石狩秋の三大祭り ERIS

秋の三大祭りは今年も9/22「浜益ふるさと祭り」からスタート。恒例の沖揚げ音頭や幌豊漁太鼓、陸上自衛隊第11音楽隊の演奏が繰り広げられたほか、カラオケ大会(写真)では老若男女12人が自慢の歌声を披露。参加賞には「サケ一尾」が贈られました。

翌日は「厚田ふるさとあきあじ祭り」。心叫太鼓や厚田音頭、さらには望来獅子舞が祭りを盛り上げ、中には獅子に頭をくわえられて泣きだす子もいました。

締めは、今年開催50回目を迎えた「石狩さけまつり」。9/28・29の両日ともに快晴に恵まれ、千人鍋や50回を記念して用意されたサケのチャンチャン焼きには人々が長い列を作り、舌鼓を打っていました。なお、今年は3つの姉妹都市からもそれぞれ訪問団が来石し、茶会やサケのつかみ取りなどを存分に楽しんだようです。

Voice

今年は天気もよくて、朝早く、準備中から様子を見に来たよ。第1回から欠かさず見ているけど、やっぱりいろんな催し物があって楽しいよね。(浜益区民 岸部勝雄さん)



お祭りではみんなと会えることが一番の楽しみです。あきあじを買って、それからステージをゆっくり見ながら、知り合いに声をかけたり、かけられたりするために毎年足を運んでいます。

(厚田区民 今恵子さん)



29日にチャンチャン焼きを販売しました。1時間前からお客さんが並びはじめたので、すぐに完売してしまったんだけど、お客さんに「焦げでもいいから売ってくれ!」と言われたときには、さすがに驚いたよね。(榎谷英雄さん)



▲厚田ふるさとあきあじ祭り



浜益ふるさと祭り▶